

肉と焼酎のふるさと・都城

# 「対外的PR活動の更なる推進」

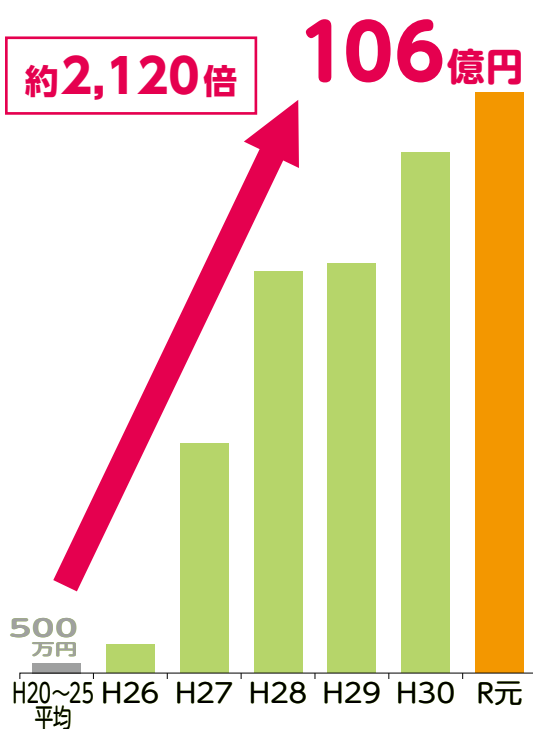
のための取り組み



躍進する都城を紹介する連載企画「都城の元気を徹底紹介」。今回は、シリーズの2回目として、「対外的PR活動の更なる推進」や、「農林畜産業」の振興、「スポーツ・文化活動」の推進の取り組みと成果について特集します。

◎問い合わせ 秘書広報課 ☎23-3174

ふるさと納税寄附金額  
累計410億円超！ R2.5月末時点



## 「日本一の肉と焼酎」に 特化した対外的なPR

「都城」を「知ってもらおう」ため、平成26年から2つの大きな柱で対外的なPRを展開しています。都城の強みを「日本一の肉と焼酎」に特化するとともに、民間の知名度と都城をリンクさせるといふ、これまでの行政の常識・殻を打ち破ることで、本市の認知度を高めてきました。

具体的には、日本一のふるさと納税やPRロゴの制作、PR看板の設置、東京モノレール企画電車の運行など、本市の認知度を高めるさまざまな施策に重点的に取り組んでいます。

## 対外的PRツール

### 日本一の「ふるさと納税」

平成26年にふるさと納税を大幅にリニューアル。ふるさと納税を対外的PRツールとして活用しています。返礼品を肉と焼酎に特化したことで、「肉と焼酎といえば都城」が定着し、平成27年度・28年度にふるさと納税の寄附件数、寄附金額が日本一となり、本市の魅力が全国に発信することができました。

返礼品は全て地元から調達し、地域経済の活性化にも大きく寄与しています。

ふるさと納税日本一に輝いた本市が誇る「肉と焼酎」をテーマに、観光客が都城を訪れ、本物の「肉と焼酎」に出会える「ミートツーリズム(以下:MT)」。meat「肉と焼酎」にmeet「出会うこと」のできる滞在型旅行企画「MT」を満喫できるツアーを企画・実施する旅行業者と連携し、強力に推進しています。

## 肉と焼酎に出会う 「ミートツーリズム」

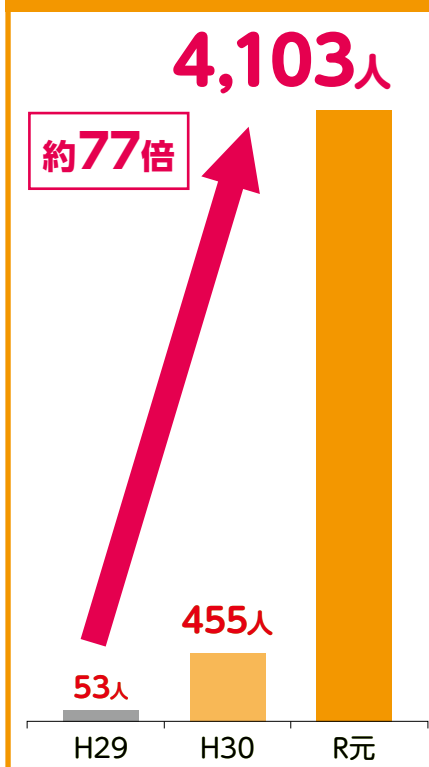
これまでの取り組みにより、都城の知名度が格段に向上したことで、対外的なPRは「選んで来てもらう」取り組みをより強化しています。具体的には、「ミートツーリズム」などの新たな施策に取り組み、本市への観光客の増加を図っています。

## 対外的なPRは「選んでもらう」取り組みを強化

このほか、肉マップで市内のおいしいお肉を食べられるお店を紹介したり、焼酎造りなどの体験型のコンテンツを発掘したりなど、「肉と焼酎のふるさと・都城」の魅力を対外的に発信しています。

平成29年度のMTスタート時に53人だった参加者は、令和元年度4、103人と約77倍に急増。延べ4、611人が参加し、観光客の増加につながっています。

### ミートツーリズム 参加者



## 都城のファンを拡大

市公式オンラインショップやファンクラブなどを通じて、「都城を選んだ人」とのつながりをより深める取り組みを進め、さらなる物産振興や観光の拡大を図っています。



MT参加者の焼酎造り体験の様子

## 物産振興拠点施設 道の駅「都城」をリニューアル

国土交通省の重点「道の駅」にも選定されている道の駅「都城」。この施設を「肉と焼酎のふるさと・都城」の新たなランドマークとして、令和元年度から5年度にかけて大幅にリニューアル。現在の道の駅や都城圏域地場産業振興センター、市役所都北町別館の敷地面積を合わせた約1・9畝を、新たな道の駅として整備し、物産振興と交流人口の拡大による地域活性化を図ります。



新たな道の駅「都城」イメージパース





# 食糧供給都市としての体制を強化 「農林畜産業」振興 の取り組み

市では、本市の宝である「農林畜産業」のさらなる振興のため、担い手の確保や農業生産基盤の整備などと併せて、農林畜産物の付加価値を高める6次産業化の推進に、積極的に取り組んでいます。

## 担い手の確保

担い手生産者の高齢化や後継者不足などにより、農林畜産業の従事者が激減。耕作放棄地が増加するなど、大きな問題となっています。

市では、担い手確保のため、新規参入者および親元就農者を対象に、「農業後継者等支援事業」を実施。就農直後の農業経営費などの一部を支援しています。



令和元年度は新たに23人が本事業を活用。支援を開始した平成28年度から累計で、81人が活用しています。

### 【支援額】

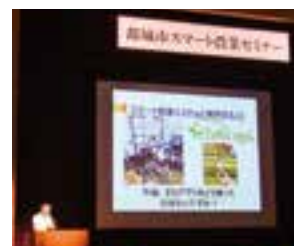
- ①新規参入者 10万円/月  
(年間120万円を2年間)
- ②親元就農者 5万円/月  
(年間60万円を2年間)

## 先進技術を農林畜産業に導入

担い手が、その意欲と能力を存分に発揮できる環境を整備するため、

市では、AI（人工知能）やロボット、ICT（情報通信技術）などを活用した「スマート農業」を推進しています。

令和元年度から、スマート農業に取り組む農業者による事例発表と、農機具メーカーなどによる展示会を併せた「スマート農業セミナー」を開催。そのほか、農業者が農機具メーカーなどと連携して実施する実証事業の経費の一部を支援する「スマート農業モデル実証」に取り組むなど、食糧供給都市としてのさらなる発展性の確保と、生産体制の強化に取り組んでいます。



## 6次産業化を推進

市内の事業者が生産した農林畜産物の付加価値を高める「6次産業化」の取り組みを積極的に支援。



全国展開できる商品の開発や販売力の強化を促すことで、「儲かる農業」の実現に取り組んでいます。

事業開始から令和元年度までの6年間で、新たに45事業者が6次産業化の取り組みを開始。171商品が開発されています。

### 【営業力強化対策事業】

はばたけ 都城6次産業化推進協議会などと連携した商品力向上セミナーの実施や、展示商談会など



営業活動を強化しながら、大都市圏への販路開拓にも取り組んでいます。この結果、平成29年度は17件であった商談件数が、令和元年度には40件に増加しています。

### 【売れる商品づくりサポート事業】

市では、平成31年度から、外部の専門家チームと連携した商品開発プロジェクトを展開。消費者ニーズに合わせた商品開発体制の強化を図っています。

今後も、6次産業化の推進に向け、事業者へのきめ細かな支援を実施していきます。

# 健康増進と合宿誘致を強化 「スポーツ・文化活動」推進 の取り組み

市では、市民の健康増進や各種スポーツの競技力向上のため、スポーツ施設の計画的な整備を進めています。また、これらの施設を有効活用し、プロスポーツチームのキャンプや学生などのスポーツ・文化合宿の誘致に取り組んでいます。

## スポーツ環境の整備

### ●山之口運動公園の着実な整備

令和8年度に本県で開催される国民スポーツ大会に向け、県と本市が共同で、山之口運動公園に県立陸上競技場などを整備。これにより、全国レベルの各種大会の開催が可能となり、交流人口の拡大や地域活性化への波及効果が期待されます。同競技場は、巨大地震発生時の後方支援拠点としての機能も備えています。

本年度、用地取得や設計委託業務、既存施設の解体工事などを実施し、完成は令和6年度を予定しています。

### ●その他体育施設の整備

#### 【高城運動公園】

平成28年度までにバックスクリーンの改修や、屋内競技場、クラブハウス、駐車場などを新設。利用者の安全性や利便性が向上したほか、スポーツキャンプ誘致数の増加につながっています。

#### 【早水公園体育文化センター】

平成27年度から30年度にかけて、弓道場やサブアリーナ・武道場を整備。既存の体育施設と一体的に活用することで、全国レベルの各種大会の開催が可能となりました。

同施設は、市の地域防災計画において防災活動拠点に指定されており、災害時には、避難所や救急医療拠点などとして活用します。

#### 【都城運動公園】

野球場の大規模改修を実施。グラウンドの黒土の入れ替えや、スコアボード一体型バックスクリーンなどを整備し、野球競技や大規模イベントでの利用などが期待できます。

今後は、令和8年度開催の国民スポーツ大会ソフトテニス競技会場として、テニスコートなどを整備します。



## スポーツ・文化団体の合宿誘致

市では、プロスポーツチームへの積極的なキャンプ誘致活動のほか、アマチュアのアマチュア・文化団体の

合宿を支援。

この取り

組みの結果、

令和元年度

の合宿誘致

団体数は、

平成24年度

と比べ約9

倍の174

団体に急増。

宿泊者の増加など、地域活性化につながっています。

### 【令和2年春季キャンプ実績】

ツエーゲン金沢、栃木SC、プロ野球選手自主トレ、シオノギ製薬女子ソフトボール、日本精工女子ソフトボール



スポーツ・文化合宿 ~営業強化などによる大幅増!

